保存版

井手町 水害ハザードマップ

雨の降り方や浸水の状況に十分注意し、早めの避難を心がけましょう。
いざという時に備えて、普段から次のようなことを心がけましょう。

井手町水害ハザードマップは、地域の住民の方々がすばやく安全に避難できることを主な目的に、被害の想定される区域と被害の程度、さらに避難所などの情報を地図上に明示したものです。氾濫による着色がない地域でも、状況によっては浸水することがありますので注意してください。洪水に対しては、事前の備えを行うことで被害を軽くすることができます。

令和2年4月発行

井手町役場　〒610-0302　京都府綴喜郡井手町大字井手小字南玉水67
TEL 0774-82-2001(代表)　http://www.town.ide.kyoto.jp/

わが家の防災メモと緊急連絡先

わが家の防災メモ

家族の連絡先や緊急時の避難先を事前に話し合って決め、いざという時のためにメモしておきましょう。

避難所　　集合場所

家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号

わが家の緊急連絡先

名称・氏名	住　所	電話番号

非常時緊急連絡先

※119番通報するときは、あわてず落ち着いて、急病なのか、事故なのかをはっきり伝えましょう。

火災・救急車	（局番なし）119
京田辺市消防本部	0774-63-1125
京田辺市消防署井手分署	0774-82-3000
警察への急報	（局番なし）110
田辺警察署	0774-63-0110
田辺警察署井手交番	0774-82-2004
NTT(電話故障時)	（局番なし）113
災害用伝言ダイヤル	（局番なし）171
水道の不具合	井手町上下水道課　0774-82-6169
電気の不具合	関西電力(伏見営業所)　0800-777-8033
井手町役場	0774-82-2001

雨の降り方に注意して水害に備えよう

洪水が心配される台風や集中豪雨のとき、どんなことに注意して、
どんな準備をすればよいのでしょうか?
みなさんの家族で洪水・水害対策のポイントを確認しましょう。

雨の強さと降り方　（1時間降雨量）

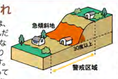
1時間雨量が 10～20mm	ザーザーと降る	やや強い雨	話し声が聞こえにくくなります。長雨になりそうなら注意が必要です。
1時間雨量が 20～30mm	どしゃ降り	強 い 雨	どしゃ降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨。小さな川なら水があふれ出したり、がけ崩れの心配もあります。
1時間雨量が 30～50mm	バケツをひっくり返したように降る	激しい雨	山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなります。道路の規制も行われます。避難の準備をしましょう。
1時間雨量が 50～80mm	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	非常に激しい雨	滝のように雨が降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。家の中で寝ている人の半分くらいが気づくほどの激しい雨です。
1時間雨量が 50～80mm	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる	強烈な雨	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大雨による災害が起こる恐れがあります。厳重な注意が必要です。

土砂災害の種類と前兆

土砂災害には、土石流、地すべり、がけ崩れの3種類があります。

■がけ崩れ

「がけ崩れ」とは、地中にしみこんだ雨水により、急な斜面が突然滑り落ちる現象です。また地震によって起こることもあります。



■土石流

「土石流」とは、谷や山の斜面から崩れた土や石などが、大雨や長雨による水と一緒になって、一気に流れ出てくる現象です。

■地すべり

「地すべり」とは、粘土のようなすべりやすい地層に雨水などがしみ込み、その影響で地下水位が上昇し、地面が滑り出す現象です。

■土砂災害の前兆現象

大雨や長雨によって、山やがけに水がたくさんしみこむと土砂崩れが発生することがあります。
土砂崩れが発生する前には、山やがけなどに異変がみられることがあります。

地面にひび割れができる小石がパラパラ落ちてくる斜面から水が噴き出す。

山鳴りがする。

雨が降り続いているのに川の水位が下がる。

沢や井戸の水が濁る。川の水が急に濁り、流木が混ざりはじめる。

備えと準備

災害時に、すぐ避難できるよう非常時持ち出し品（袋）を準備しておきましょう。
中身は自分にとって必要なものを、家族がいる場合は一人分ずつの用意があると安心です。
両手が使えるリュックなどを使い、玄関や寝室などに置いておけば、いつでも持ち出すことができます。

非常時持ち出し品チェック　事前に確認しましょう、準備ができたら□にチェック

非常食、生活用品、貴重品の他、救急セットや衣類の替えなども用意しておきましょう。

非常食	□	カンパン
	□	缶詰
	□	レトルト食品
	□	飲料水
生活用品	□	懐中電灯
	□	ナイフ
	□	缶切り
	□	マッチ
	□	ライター
	□	ロープソク
	□	ロープ
	□	洗面用具
	□	タオル
	□	ティッシュ
	□	ビニール袋
貴重品	□	通帳
	□	印かん
	□	現金
	□	保険証
救急セット	□	キズ薬
	□	胃腸薬
	□	シップ薬
	□	消毒薬
救急セット	□	鎮痛剤
	□	包帯
	□	ばんそうこう
	□	ガーゼ
	□	脱脂綿
	□	はさみ
	□	ピンセット
衣類	□	下着
	□	くつ下
	□	手袋
	□	セーター
	□	ジャンパー
	□	スニーカー
その他	□	ヘルメット
	□	防災ずきん
	□	毛布
	□	携帯ラジオ
	□	予備電池
	□	育児用品
	□	メガネ・コンタクト

非常食、飲料水は約3日分を用意しましょう。（飲料水は1人につき1日3リットルが目安です）

避難所一覧

名称・氏名	住　所	電話番号
多賀小学校	大字多賀内垣内 20−1	0774-82- 2112
有王分校	大字田村新田小字有王 13	0774-82- 4412
自然休養村管理センター	大字井手小字二本松 2−1	0774-82- 4333
玉川保育園	大字井手小字玉ノ井 47	0774-82- 2153
老人福祉センター「玉泉苑」	大字井手小字東前田 28	0774-82- 3499
井手小学校	大字井手小字野神 38	0774-82- 2119
山城勤労者福祉会館	大字井手小字大塚 99−35	0774-82- 3639
山吹ふれあいセンター	大字井手小字二本松 3−1	0774-82- 5700

情報の伝達と避難指示の重要性

雨足が強まり避難が必要な状況になると、
家から避難先までの道路は、普段とまったく違った状態になります。
避難時には正しい情報に基づいて助け合いの精神と慎重な行動を心がけてください。

避難情報の入手方法

井手町防災情報

井手町緊急速報メールサービス「災害・避難情報」の配信
※携帯電話をお持ちの方は自動的に受信します。
（迷惑メール防止設定をされている方は受信しません。）

京都府防災・防犯情報

京都あんぜん・あんしんメール 配信システムへの登録
※右のQRコード、もしくはアドレスに空メールを送信し、
京都府から返信されるメールに従って登録手続を実施して下さい。
anzen@k-anshin.pref.kyoto.jp

町から発信される災害時の避難情報

- 広報車　● ラジオ　● テレビ
- 井手町緊急速報メールの配信
- 井手町ホームページ
http://www.town.ide.kyoto.jp/

気象情報・河川の水位情報・雨量情報

防災関連リンク

連　絡　先	ホームページアドレス
京都地方気象台ホームページ	http://www.jma-net.go.jp/kyoto/
国土交通省川の防災情報	http://www.river.go.jp/（パソコン版）
	http://www.river.go.jp/s/（スマホ版）
	http://i.river.go.jp/（携帯版）
京都府河川防災情報	http://chisuibousai.pref.kyoto.jp/

3つの避難情報と行動

緊急の度合い

避難指示の種類	町からの呼び掛けの内容(例)	とるべき行動
1 避難準備・高齢者等避難開始	いつでも避難できるように準備してください。	要配慮者は指定された避難所へ避難行動を開始。その他の皆さんは家族との連絡、非常時持ち出し品の用意など、避難準備を開始。
2 避難勧告	家族そろって早く避難してください。	住民の皆さんは指定された避難所へ避難行動を開始。
3 避難指示（緊急）	直ちに避難を開始してください。また、近所の方はお互いに助け合って避難してください。	避難していない住民は必ず避難すること。

浸水被害の備え

気象庁から注意報・警報が発表されるほどの雨が降ると、洪水や家屋浸水などの災害が発生する場合があります。
また水の力はとても強く、大雨による浸水被害が起こった場合、人や車は簡単に押し流されてしまいます。
大雨が予想されるときは、水辺に近づかないようにしましょう。

水位情報と避難の呼びかけ

※ 各種の情報は、レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

気象庁と国土交通省・京都府が発表する洪水予報の危険度レベル

レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
発表なし	氾濫注意情報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	氾濫発生情報
水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位	氾濫の発生
水防団が出動のために待機する	氾濫に関する情報に注意する	避難に関する情報に注意し、避難勧告等が発令されたら避難する	氾濫のおそれがある水位で、避難を完了する	避難場所にとどまり、注意を怠らない

災害時、援護を必要とする人のために

地域で災害の救援に参加しましょう。
高齢者や要配慮者への声掛けなどそれぞれができる範囲で協力しましょう。

要配慮者のために

要配慮者の方々を災害から守るために、地域で協力しあいながら支援していきましょう。

高齢者・寝たきりの方のために	・緊急の時は、おぶって安全な場所まで避難する。 ・複数の介助者で対応する。 ・不安を取り除くように声をかける。
車いすをご利用の方のために	・階段では、2人以上の協力が必要で、上がりは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。 ・介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。
目の不自由な方のために	・緊急の時には、声をかけ、情報を伝える。 ・誘導する場合には、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽くもってもらい、半歩前をゆっくり歩く。
耳が不自由な方のために	・話す時は、口の開け方をハッキリと、相手にわかりやすいようにする。 ・手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

避難所での3つのマナー

避難所には家と違ってたくさんの人たちが集まります。勝手な行動をしたり、まわりに迷惑をかけるようなことはやめましょう。
みんなが不安なときを過ごす場所なのでお互いに協力しあって過ごしましょう。

1 ゆずりあい	避難所は限られたスペースしかありません。ケガをしている人や体の不自由な人たちなどには場所をゆずりあいましょう。また、トイレの順番などもゆずりあいましょう。
2 たすけあい	ケガをしている人や体の不自由な人、また病気の人なども避難所には集まります。健康で元気な人たちが先頭になって、みんなが快適に過ごせるようにたすけあいましょう。
3 おもいやり	大きな声を出したり、走り回ったりすると、まわりの人たちの迷惑になります。お互いに思いやる気持ちをもって、避難所では過ごしましょう。

避難時の8つの心得

日頃から避難に必要な物を用意しておくとともに、避難の手順について家族で打ち合わせをしておくと、
いざという時あわてずに避難ができます。また、その時は、ラジオや広報車などからの情報を確認し、
一人で行動せず、必ずグループで行動するようにしましょう。

いざという時、あわてず、冷静に

1 安全な避難路の確認を

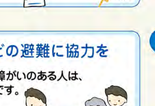
避難所までの経路（避難路）は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。

2 非常持出品の事前準備

避難するときの荷物は必要なもののみとし、事前に準備しておきましょう。

3 正確な情報収集と早めの行動を

ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら早めに行動することを心がけましょう。



4 避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。避難の呼びかけがあった場合には、それに従いましょう。

5 お年寄りなどの避難に協力を

お年寄りや子ども、障がいのある人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子どもなどの避難に協力しましょう。

6 動きやすい服装、2人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。

7 車での避難は控えて

自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別の場合をのぞきやめましょう。

8 足元に注意

浸水している場所を歩くときは、さくり棒などを持ち、側溝や排水路に転落しないように注意しましょう。